

# 甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度秋入学

社会人特別選抜入学試験（5月選抜・5月13日分）

## 試験科目：専門論文試験 刑法

### 1. 出題趣旨

正当防衛に関する問題である。

Xについては、Bに対する傷害罪の成否が問題となる。XのBに対する暴行は、Bがうずくまる前と後ろで、刑法的な評価が異なると考えるべきであるが、最終的に生じたBの傷害がいずれの暴行によって生じたかは特定できない。

したがって、第一に、それぞれの段階で正当防衛の要件が充足されているのかどうかを検討することが必要である。とくに、急迫性の要件と防衛の意思の関係について整理する必要がある。

次に、第二に、最初の暴行と後の暴行との関係も問題となる。これによって全体の評価が決まる。

なお、本問は、最高裁平成9年6月16日判決（刑集51巻5号435頁）を元に出題したものであるが、同判決は、全体として過剰防衛として処理している。これによるならば、本問においては、まず侵害行為の一体性・継続性を踏まえて、これが一個と評価できる場合、侵害行為に対する防衛行為も一個とみることになるであろう。

### 2. 採点実感

比較的良く書けていたと思われる。基本的な論点であるので、事案を素直に読み、分析して、正当防衛の要件を当てはめることができるのかが、採点のポイントである。

### 3. 学習方法

それほど高度な知識が要求されるわけではないので、基本書をしっかりと読み、理解するような勉強をしなければならない。